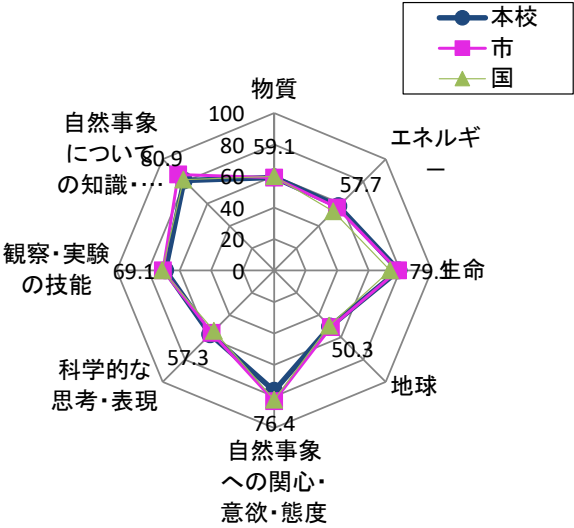


宇都宮市立桜小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	59.1	59.0	59.8
	エネルギー	57.7	56.4	53.1
	生命	79.1	78.6	73.6
	地球	50.3	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	76.4	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	57.3	56.1	54.1
	観察・実験の技能	69.1	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	80.9	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	●市の正答率は上回ったが、国の正答率は少し下回っている。 ○ろ過の操作方法を問う問題の正答率が92.7%で、市や国の正答率も上回っている。 ●物の溶け方を問う問題では、正答率が市や国を上回っているが、38.2%で低くなっている。	・実験の基本操作についての理解が定着してきているので、今後も観察や実験の時間を充実させていく。 ・実験の結果から分かったことなどを絵や図等を用いてまとめるなどの活動を大切に、実体的に捉えられるようにする。
エネルギー	○市や国の正答率を上回っている。 ●電流の流れ方について問う問題の正答率は、国を上回っているが、50%に達していない。	・実験や観察前にたてた仮説や予想を実験後に検討したり、見直したり活動も充実させていく。
生命	○市や国の正答率を上回っている。 ○人の腕が曲がる仕組みについて問う問題では、市や国の正答率を10%以上上回っている。	・今後も、教材や教具を活用しながら、理解の習熟を図る。 ・野外での観察時の安全については、随時、確認し、生物を愛護する態度も醸成させていけるようにする。
地球	○国の正答率は上回ったが、市の正答率は少し下回っている。 ●流れる水の働きの実験の結果から考察する問題の正答率は、市や国を上回っているが、21%と低くなっている。	・流れる水の働きについて、侵食・運搬・堆積の働きについて理解を活用して、実験の結果から考察する活動も充実させ、より科学的な見方ができるようにしていく。